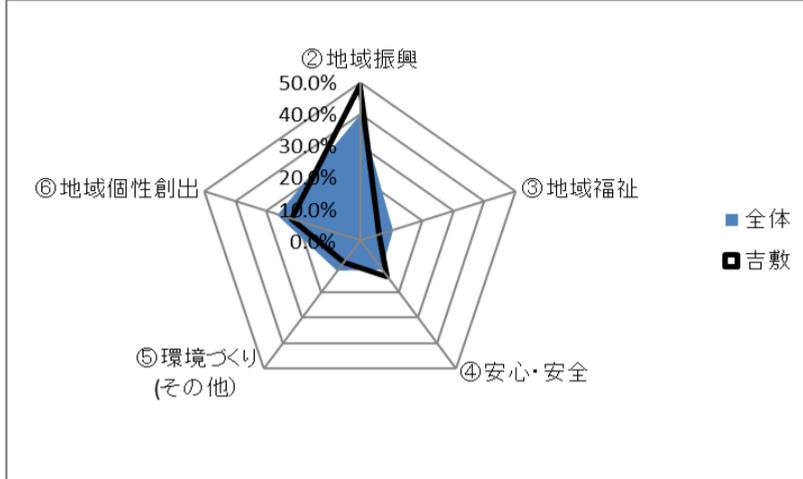


吉敷地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和元年度)

■地域の情報

地域人口	14,673人	自治会数	16
世帯数	6,305世帯	自治会加入率	77.2%

※数値は、令和2年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	9,892,000 円
交付金決算額	9,501,473 円
その他収入	7,033,090 円
交付金決算額/配分額	96.1%

各分野の決算

①協議会運営	11,422,382 円
②地域振興	2,513,845 円
③地域福祉	314,307 円
④安心・安全	727,395 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	427,927 円
⑥地域個性創出	1,128,707 円
決算総額	16,534,563 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

住民一人ひとりが主体的に地域の中でふれあい、ともに支え合う土壌をつくりあげていくことが重要であり「みんなで支え合う 笑顔あふれるふれあいのまち 吉敷」をスローガンに、次の5つの分野に地域課題を整理するとともに、地域としてこれから目指していく将来像を掲げ、課題解決に取り組んでいきます。

- 活動目標1「地域振興」ふれあいと交流による元気で住みよいまち
- 活動目標2「地域福祉」とともに支え合い心豊かに暮らせるまち
- 活動目標3「安心・安全」みんなで協力してつくる安心で安全なまち
- 活動目標4「環境づくり」美しい自然をみんなで守る快適なまち
- 活動目標5「地域個性創出」固有の歴史や文化による個性あふれるまち

■総括

「吉敷まちづくり計画」をもとに、課題解決に向け地域で活動している様々な団体や行政と連携しながらまちづくりに取り組みました。

ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、「よきフォトコンテスト」や地域食堂「えがお食堂よき」を開催するとともに、地域ぐるみによる見守り活動の仕組みづくりにも取り組む「ふれあいネットワーク協議会」により、関係団体との意見交換をすることができました。多くの地域住民や地域づくり関係団体の参画による実行委員会は、地域課題の解決に向けての地域での話し合いの場となっています。

また、高齢化の進展により免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が地域住民の看過できない課題となっていることから、コミュニティタクシー導入の検討を開始し、地域住民の意見を把握するためのアンケート調査を実施した結果、6割を超える回答率は地域住民の関心の大きさが垣間見えました。

地域情報を広く地域住民に伝えるため、地域住民と地域づくり関係団体等からの参画を得て設立された広報委員会は、地域の情報の収集や発信に努めながら4年が経過し、この間、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組むとともに、町内会・自治会未加入者にも広報紙を手にとりいただけるよう配布先の拡大などにも取り組みました。地域住民からは一定の評価が得られるとともに、山口県公民館報コンクールにおいては優良賞を受賞することができました。

地域の史跡等の案内板を設置し、地域の歴史を知るきっかけづくりにも取り組み、多くの地域住民の評価を得ました。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会運営
② 地域振興	吉敷まちづくり計画の普及・啓発、ふれあいあいさつ運動・ふれあいネットワーク、夏まつり・ふるさとまつり、よきフォトコンテスト、人材発掘に向けた交流事業、広報活動、人権学習の推進、子ども会活性化
③ 地域福祉	大運動会・多世代交流グランドゴルフ大会、健康づくりの推進
④ 安心・安全	地域防災体制の充実、交通安全・防犯対策、反射鏡・交通安全施設の充実、青少年の健全育成
⑤ 環境づくり	環境づくり、ホテルが飛び交うふるさと吉敷
⑥ 地域個性創出	文化振興

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	旧出張所・公民館跡地利活用検討	決算額	127,970円
	目的	跡地を活用した地域振興ビジョンの策定		
	実施内容	まちづくり計画に沿った「ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくり」を推進するため、総務・企画委員会において有効な活用方法の検討を進めました。跡地を拠点とした自家用車に代わる移動手段について、他地域の情報を収集しながら協議・検討しました。		
	実施時期	通年		
	参加人数	地域住民		
	成果	高齢化の進展により、免許証返納の動きが加速化することから、自家用車に代わる移動手段としてコミュニティタクシー導入の検討を開始し、コミュニティタクシー導入に係る地域住民のニーズを把握するためにアンケートを実施することができました。		
	評価	跡地を発着の拠点とした検討しているコミュニティタクシーのルートに該当する町内会・自治会との連携により、アンケート調査がスムーズに進みました。		
今後に向けて	実証運行の実施に向けて、運営組織設置の検討を始め、運行計画の作成に取り組みます。			
②	事業名	ホタル増殖・放流事業	決算額	137,925円
	目的	ホタルを通じた地域住民のふれあいや交流の促進		
	実施内容	学校、地域、行政の連携により、5月には河川清掃、6月にはホタル採取を行い、9月には良城小学生のホタルに関するポスターや標語作品の表彰とホタルの飼育状況の発表やパネル展示といった式典、3ヶ月間良城小学校で飼育したホタルの放流を行いました。 また、今年度は、吉敷のホタルのことをもっと知ってもらおうと2日間かけて、「よしきホタルのタベ」を開催し、初日は、ステージイベントや屋台の出店、2日目は、ホタルかごづくりなど講座を行い、夜は、吉敷川沿いをホタル鑑賞しながら散策しました。		
	実施時期	5月～9月		
	参加人数	700人		
	成果	毎年の活動によりたくさんのホタルが飛び交っています。来年度も、ふるさとの川にたくさんのホタルの乱舞が期待できます。 また、「よしきホタルのタベ」では、より多くの地域住民に吉敷のホタルのことを知ってもらおうとともに、イベントなどを通じて新たな交流の創出につながりました。		
	評価	地域は学校・子ども・ホタルのために参加し、学校は地域づくりの一翼を担うため開かれた学校を目指し、子どもたちは環境意識を高め、それぞれがふるさとへの愛着と命の尊さを学ぶことができ、改めて有意義な事業だと考えています。		
今後に向けて	引き続き、小学校との連携を強化し、美しい環境づくりを目指します。			
③	事業名	地域食堂「えがお食堂よしき」	決算額	89,222円
	目的	誰もが集える場の提供による地域住民の交流と見守る関係づくりの促進		
	実施内容	近年希薄となっている地域住民どうしの交流やふれあいの場を復活させ、ともに支え合い心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。		
	実施時期	通年		
	参加人数	3,000人		
	成果	毎月多くの地域住民が食事を通じた交流を楽しむことができました。地域食堂を通じてボランティアスタッフの発掘、育成に取り組みました。		
	評価	交流を第1の目的としたえがお食堂よしきの開催を通じてたくさんの地域住民が集い、交流を図ることができました。また、食後に開催した多世代の人が楽しめる企画を実施したところ、多くの人が集まり楽しみました。		
今後に向けて	地域の温かい気持ち(募金、寄付など)から成り立つこの事業の意図が、無料の食堂として来場している人が多い中、どれだけ浸透しているか。その無料の食堂開設のために、1ヶ月間ボランティアスタッフが活動する意味が見出せなくなる気持ちが大きくなっていることが危惧されていることが、2月に開催した実行委員会で確認されました。今後は、広く来場者の皆さんからアンケートを取り、この事業の推進をすべきかどうか等も含め、協議・検討を進めていきます。			